

マルチビゲンゴロウ *Leiodytes frontalis* (Sharp)

【選定理由】

草本植物の多い浅瀬に生息する微小なゲンゴロウで、かつては各地に多く見られた種であるが近年発見が難しくなっており、愛知県内での生息地は限られている。

【形態】

体長 1.5~1.8mm。短卵型で翅端部は急に細くなる。体高は高く特に腹側で強く膨隆する。背面は黄赤褐色で強い光沢がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸市(佐藤, 1990)、春日井市、尾張旭市、名古屋市、豊田市、日進市から記録がある。

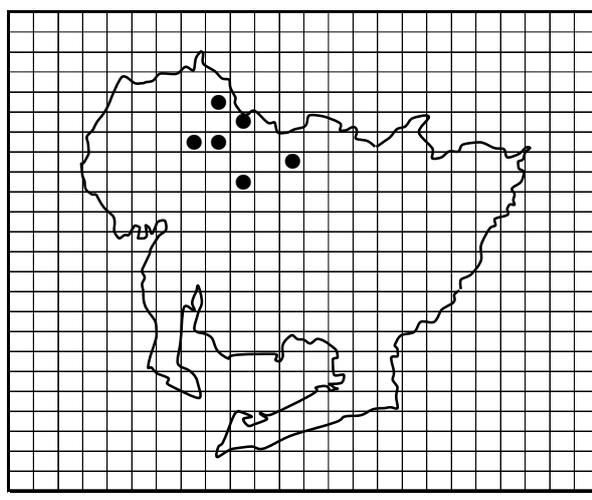
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種、国外からは知られていない。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ため池や湿地の水たまりなどの水深の浅い場所に棲息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

微小種であるため、過去の詳細な分布状況は把握されていないが、尾張地方の丘陵地で、現在も生息情報がある。圃場整備等による生息環境の減少、農薬等による水質の悪化が本種の減少の要因と考えられる。

【保全上の留意点】

現在の生息地の環境を保全するとともに、新産地の発見に努める。ただし、放棄水田等に生息する種であることから、今後放棄水田の遷移の進行とともに、生息地が失われる可能性がある。また、ネオニコチノイド系農薬の影響についても留意する必要がある。

【引用文献】

佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫, (上): 204-231. 愛知県.

【関連文献】

森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ, 232pp. 文一総合出版.  
上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II), 514pp. 保育社.  
日進市, 2015. 第8章 第4節 コウチュウ目, 昆虫. 新修 日進市史. 日進市生涯学習課.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)